

令和5年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号

(7月後半の発生予想)

令和5年7月14日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】

葉いもち	量：やや多い 程度：少発生	① 調査ほ場では7月上旬に少発生が確認され、発生量は平年比やや多い。(+) ② BLASTAMによる感染好適条件は、6月21日の本田初確認以降も各地で断続的に出現しており、今後、発病の増加が見込まれる。(+) ③ コシヒカリBLの発病抑制効果は高く維持されている。(－) ④ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。(±～＋)
穂いもち	量：やや多い 程度：少発生 時期：やや早い	① 7月上旬の葉いもち発生量は平年比やや多い。(+) ② イネの出穂期は平年よりやや早まる見込み。 ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。(±～＋)
紋枯病	量：並 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② イネの茎数は指標値と比べ、並～やや多い見込み。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。(＋)
稲こうじ病	量：やや少ない	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。(±～＋)
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 時期：やや早い (第1世代発蛾最盛期7月第6半旬頃)	① 7月上旬の被害株率は平年並。(±) ② 第1世代幼虫の発生時期は平年並。 ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
セジロウンカ	量：やや少ない 時期：遅い (次世代成虫)	① 7月4日に初確認で時期は平年比遅い。(－) ② 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稻】（つづき）

斑点米カメムシ類	量：並 時期：並	① 7月上旬のアカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔すくい取り虫数は平年比少なく、確認地点率も平年比やや少ない。（－） ② ただし、魚沼、上越地域ではアカスジカスミカメの確認地点率は平年比やや高い～高い。 ③ 水稻の出穂期は平年よりやや早まる見込み。（＋） ④ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。（＋）
【防除上の留意事項】 ① 斑点米カメムシ類は出穂したイネ科雑草に寄生し、増殖するので、これらの雑草が出穂する前に畦畔の草刈りを行い、水田侵入前の発生量を抑制する。 ② 水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長するので早めに除去する。 ③ 品種ごとに出穂期を確認し、防除適期に合わせ確実に薬剤防除する。コシヒカリをはじめとする中生、晩生品種についても適期防除を徹底する。		
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：並 程度：少発生	① 7月上旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並か多いと予想されている。（±～＋）
コブノメイガ	量：並～やや多い 時期：並	① 7月上旬の被害発生は未確認で発生量は平年並。（±） ② 佐渡市に設置したフェロモントラップでの初誘殺は7月4日で平年（7月3日）に比べ1日早く、誘殺数は平年比多い。（＋）

【大豆】

ウコンノメイガ	量：やや少 時期：並	① 前年の発生量は平年比少ない。（－） ② 調査ほ場では7月上旬まで未確認で発生量は平年比やや少ない。（±） ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。（±）
【防除上の留意事項】 ① 幼虫の食害に伴う葉巻の発生は7月中旬頃から始まり、7月第6半旬から急増する。齢期が進んだ幼虫には防除効果が劣りやすいので防除が遅れないよう注意する。 ② 防除時期は7月第6半旬であるが、薬剤によって散布適期が異なるので、新潟県病害虫雑草防除指針に基づき散布する。		
食葉性鱗翅目幼虫 （ウコンノメイガ以外）	量：並	① 7月上旬の調査でツメクサガ等の食害が確認され、発生量は平年比少ない。（－） ② 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されている。（±～＋）

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2：「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課

電話：0258-35-0867

FAX：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1か月予報（7月15日から8月14日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和5年7月13日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

前線や湿った空気の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の降水量は、平年並が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。

2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、平年並か高い確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10	30	60
降 水 量	20	40	40
日照時間	40	30	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1週目（7月15日～7月21日）	10	20	70
2週目（7月22日～7月28日）	30	50	20
3～4週目（7月29日～8月11日）	20	40	40